

室員紹介 ～第四回 上原主査～

総合政策局参事官室（総合交通体系）

主査 上原 光太郎

- ①出身地：千葉県柏市(サッカーチーム、柏レイソルのホームタウンです。今年 J1 復帰 1 年目にもかかわらず上位に食い込んでおり、地元サポーターとしてはうれしい限りです。)
- ②趣味：柏レイソルの応援、ランニング（最近のマラソンブームにあやかり、近所の土手を走っています。）、水泳（中学校の部活以来、夏は専らこっちです。)



昨年 7 月に着任して以来、「ICT 等を活用した歩行者の移動支援施策」に携わっています。

突然ですが、『ICT』って何か知っていますか？

近年新聞やテレビをはじめ色々なところで見聞きするようになった ICT。

「ICT 政策」、「ICT 産業」、「ICT ソリューション」、「ICT 教育」等々、少し調べただけで至るところで使われています。このように、各所で大活躍の ICT ですが、改めて「『ICT』って何？」と聞かれるとどう答えれば良いのでしょうか。

パソコンやスマートフォンを使うこと？それとも、無線 LAN や光通信を使ってインターネットをすること？

それも答えのようにも思えますが、必ずしもそれだけとも限らない気もします。そこで、今の仕事と少なからず関係の深い ICT について、少し考えてみました。

ICT をインターネットで調べると、以下のようになっています。

【ICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)】

情報・通信に関連する技術一般の総称。日本では同様の言葉として IT の方が普及しているが、国際的には ICT の方が通りがよい。総務省の「IT 政策大綱」が 2004 年から「ICT 政策大綱」に名称を変更するなど、日本でも定着しつつある。(IT 用語辞典 e-Words より)

ちなみに IT(Information Technology:情報技術)は、何かの目的のために情報を探して(検索)、集めて(収集)、作り替えて(加工)、出す(出力)ための技術。だいぶ前に大流行し、今ではかなり定着した言葉だと思います。

IT を使って情報を探する場合、自分が持っている情報だけでなく、他の人と共有する情報からも探した方がより多くの情報を収集できます。また、作った情報も自分だけでなく他の

人と共有すれば、多くの人に活用されてより良い情報になる可能性が高くなります。

そこで、IT だけじゃなくて他の人に情報を伝えて共有するための CT(Communication Technology:通信技術)も必要だ、ということでこれらをくっつけて ICT になったようです。

ところで、IT と言えば「IT を発展させれば何事も解決できる」等のように、まるで魔法の言葉のように使われていた時期もありました。しかし、IT はあくまでコンピュータやそれに関係する技術であって、IT の発展というとコンピュータをいかに高性能にするかということに焦点があてられていました。そこでは、ともすれば技術の向上ばかりが注目され、それを使う人が置き去りにされがちでした。

しかし、本来情報を扱うのは人です。そして、人が情報を使う場合、多くは自分が持つ情報や考えを他の人に理解してもらうことが目的であり、そのためには情報を伝える (Communicate)能力が重要になります。

だから、IT だけでなく CT も、コンピュータだけでなく人も。

『ICT』とは、これまでの IT が意味するコンピュータに関する技術に加えて、情報を伝えるための人との Communication も重要だよ、ということを強調しているのではないのでしょうか。

ひるがえって今の仕事を考えてみると、「ICT 等を活用した歩行者の移動支援施策」は、高齢者や障がい者のような移動制約者を含め、あらゆる歩行者が積極的に活動できるように、段差の有無などのバリア情報、バリアフリーの経路、観光情報など移動に必要な情報を簡単に入手できるバリアフリー環境の構築を実現しようとするものです。

そのためには、IT だけでなく CT の果たす役割も大きく、まさに『ICT』が不可欠な施策なのだと思います。